

# 本邦におけるヤマトマダニ人体寄生例の概観

## —文献的考察— (続報)

沖野 哲也, 後川 潤, 的場久美子, 初鹿 了\*

前報(初鹿, 1998)に続いて, 1997年9月~2005年9月に本邦で発生したヤマトマダニ人体寄生例の報文を通覧して疫学的に検討した。今回の症例は, 前報に追加の3症例を含めて40例(男性15, 女性11, 性別不明14)である。患者の都道府県別発生数では静岡が27.5%で最も多かった。患者は4~9月に発生していたが, 発生率は5月の37.5%をピークに, 83.3%が5~8月に集中していた。患者の年齢は1~74歳で, 9歳以下が30.8%と最も多かった。年齢と性別の関係では, 9歳以下の女兒と50歳代の女性が最も多く, それぞれ19.2%だった。虫体の寄生部位は, 眼瞼が61.5%で最も多く, 次いで頸部と耳介が各7.7%, 以下, 胸・腹部などがそれぞれ3.8%の順で, 頭部・頸部の寄生が92.3%(24例)を占めていた。患者がマダニの寄生を受けた場所については大多数が山岳地帯であるが, その他に野原や庭などがあつた。本邦において2005年までに報告されたヤマトマダニの人体寄生症例は, 前報の216症例を加えて256例となる。本稿ではこれら256例についても疫学的検討を加えた。

(平成18年10月6日受理)

## Additional Report on Human Cases of Infestation with the Hard Tick, *Ixodes ovatus* (Acarina : Ixodidae) in Japan -A Bibliographical Review-

Tetsuya OKINO, Hiroshi USHIROGAWA, Kumiko MATOBA and Ryo HATSUSHIKA\*

This paper reviewed significant literature on human infestation with the hard tick, *Ixodes ovatus* (Neumann, 1899) occurring in Japan between Sept. 1997 and Sept. 2005. A total of 40 patients (15 male, 11 female, 14 unknown), including three patients added to a previous paper (Hatsushika, 1998), have been reported in the literature. The patients were distributed widely in Japan, although the highest incidence of cases was found in Shizuoka Prefecture (27.5%) in central Japan. The tick infestation of the reported cases most frequently occurred in the summer period of May to August, and the highest incidence was found in May (37.5%). The age range of the patients was from 1 to 74 years of age, and the highest incidence was found in younger children under the age of nine (30.8%). The most common infestation site of the patients was on the skin of the head and neck region (92.3%), particularly around the eyes (upper and lower eyelids, 61.5%). The tick bites in the majority of the cases were principally acquired in mountainous areas. In

川崎医科大学 微生物学教室  
〒701-0192 倉敷市松島577

\* 同 名誉教授

e-mail address : okino@med.kawasaki-m.ac.jp

Department of Microbiology, \*Professor Emeritus, Kawasaki  
Medical School : 577 Matsushima, Kurashiki, Okayama,  
701-0192 Japan











臀部・下肢などの下半身への咬着例は認められず、すべてが頭部・頸部・体幹への咬着例である。これらも山口（1989）<sup>5)</sup>の意見とよく一致した。

#### （6）マダニ咬着の受傷場所

前報で述べたように、マダニ類の咬着を受けた場所を明記している報告は少ないが、今回報告の40症例のうち受傷場所を記載している24例では、山菜採りが6例（25%；男性1，女性5）で最も多く、次いで山林・キャンプが各3例（12.5%；男性2，性別不明1・男性1，女性2），旅行中・草取りが各2例（8.3%；男性2・男性1，女性1）で、以下、野原・ハイキング・畑作業中・登山・ワラビ採り・自宅庭・友人宅・建設作業中が各1例（4.2%；男性5，女性3）である。これらの受傷場所は前報の216症例のそれとほぼ同様であり、ヤマトマダニの受傷場所は溪谷・山岳地帯での山菜採り・散策・キャンプ・登山・山林の手入れ作業中・高原での植物採集など、山岳地帯で咬着したと推定される症例が多い。その他では草原散策・草原で寝転んだ時・庭木の剪定・庭の草取り・農作業中など、平地でマダニの被害に遭遇したと推定される。

#### （7）治療

マダニ寄生例の報文では、患者の治療について記述しているものは極めて少ない。今回報告のヤマトマダニ寄生40症例に関しても治療につ

いては大多数の報文で記載がないが、虫体除去後に咬着部位にリンデロンVG軟膏の塗布など、一般的な皮膚科的処置が施されている。これによって、マダニ寄生の大多数の患者は約10日後に咬着部位が完治している。また、皮膚科専門の医療機関を受診した患者では、虫体を咬着部位周囲の皮膚と共に切除したのち、1～2針縫合した例もある。

マダニ類（Ixodidae）の中で、ヤマトマダニを含むマダニ属（*Ixodes*）はチマダニ属（*Haemaphysalis*）のダニよりも顎体部・口下片が共に長いので、皮膚に寄生すると口下片が皮膚内に深く刺入している。このような咬着虫体を無理に引っ張ると皮内に口下片がちぎれて残ることがある。したがって、マダニ属のダニ寄生例では皮膚に咬着した虫体を完全に除去することが必要である。馬原（1990）<sup>33)</sup>は、皮膚咬着のマダニ虫体を除去するためには、咬着局所に麻酔剤約1mlを注入して皮膚を膨隆させ、外科用または眼科用の曲型尖剪刀で虫体下面に沿って刺入し、鉗を開いて虫体の下に空隙を作り、虫体を潰さないようにピンセットで空間に落とし込むようにして摘出する方法を推奨している。

前述のように、現在、本邦においてヤマトマダニは日本紅斑熱の媒介種として疑われているので、治療に当たっては虫体除去後においても患者の経過観察が必要である。

## 引用文献

- 1) 馬原文彦，古賀敬一，沢田誠三，他：わが国初の紅斑熱リケッチア症。感染症誌 59：1165-1172，1985
- 2) Kawabata M, Baba S, Iguchi K, et al. : Lyme disease in Japan and its possible incriminated tick vector, *Ixodes persulcatus*. J Infect Dis 156：854，1987
- 3) 齋藤あつ子，ライ・シバ・クマラ，何 深一，他：本邦におけるヒトの *Babesia* 寄生のはじめての証明。感染症誌 73：1163-1164，1999
- 4) 馬原文彦：日本紅斑熱発見の経緯と現況。感染症誌 77：725，2003
- 5) 山口 昇：マダニ刺症一種の多彩と症例の増加。最新医学 44：903-908，1989
- 6) 初鹿 了：本邦におけるヤマトマダニ人体寄生例の概観－文献的考察－。衛生動物 49：1-30，1998
- 7) 小林明美，前川和子，鈴木明弘，他：眼瞼のダニ症。眼臨 75：237，1981
- 8) 山本 晃，馬詰良比古：下眼瞼部のマダニ刺咬症の1例。眼臨 79：1963，1985
- 9) 栗原郁子：ヤマトマダニによる眼瞼咬刺症の1例。眼臨 87：1406，1993

- 10) 布 清文, 福本宗嗣: マダニ刺症の一例. 西日皮膚 59: 918, 1997
- 11) 工藤美也子, 額賀裕美, 川内康弘, 他: マダニ症の2例. 茨城臨医誌 33: 123, 1997
- 12) 和田紀子, 小佐野容子, 山田裕道, 他: マダニ刺咬症の4例. 皮膚臨床 39: 2048-2049, 1997
- 13) 飴谷有紀子, 井庭香織, 石野 剛, 他: ヤマトマダニによる眼瞼咬刺症の1例: 眼臨 92: 156-158, 1998
- 14) 松島博之, 原 孜, 原たか子, 他: 18日間放置されたヤマトマダニによる眼瞼咬刺症. 臨眼 52: 1278-1280, 1998
- 15) 大西道広, 長内泰子, 秋葉 純: 乳児のマダニ眼瞼咬刺症. 眼科 40: 1659-1660, 1998
- 16) 角田 隆, 森 啓至, 藤曲正登: 同定依頼検査よりみた千葉県におけるマダニ被害. 千葉衛研報告 22: 38-39, 1998
- 17) 新井建男, 新井裕子, 中嶋 弘: マダニ刺症の3例. 皮膚臨床 41: 715-721, 1999
- 18) 黒沢明充, 関川弘雄: マダニによる眼瞼咬刺症の1例. 眼臨 93: 1111, 1999
- 19) 野原雅彦, 松岡紀夫, 平林 博, 他: 眼瞼部, 眉毛部のマダニ咬症の5症例. 眼臨 93: 1498-1501, 1999
- 20) 広瀬嘉恵, 斎藤隆三, 甘利雅雄: マダニ刺症の1例. 日皮会誌 109: 1512, 1999
- 21) 鈴木一年, 藤沢重樹: 2年間に2度受傷したマダニ刺症の1例. 皮膚臨床 43: 475-476, 2001
- 22) 星 最智, 西浦正敏, 橋田正継, 他: マダニによる眼瞼咬刺症の1症例. 眼臨 95: 1087, 2001
- 23) 高橋嘉晴, 長尾定美, 石川宏志, 他: 眼瞼マダニ咬症の2例. 眼臨 95: 1123-1125, 2001
- 24) 記野秀人, 石井 明, 寺田 護: 静岡県におけるマダニ刺咬症の推移. Clinical Parasitol 12: 27-28, 2001
- 25) 阿曾香子, 若倉雅登, 天野理恵, 他: 虫体脱落をみたマダニ眼瞼刺症. 臨眼 55: 1729-1733, 2001
- 26) 上里 博, 武居公子, Noor Khaskhely Mohammad, 他: マダニ刺症の1例. 西日皮膚 64: 726-731, 2002
- 27) 佐藤八千代, 長谷川 毅, 斎藤隆三, 他: 日本におけるマダニ刺症について. 日小皮会誌 21: 15-19, 2002
- 28) 阿曾三樹: スライド供覧. (1) マダニ刺症, (2) ネコノミ刺症. 西日皮膚 65: 626, 2003
- 29) 岡本雅子, 井岡基弘, 上村 清: 臀部化膿疣贅の切開摘出時にみられた虫体構造物の同定-マダニ刺咬症の1例. 日本ダニ学会誌 12: 49, 2003
- 30) 蜂須賀裕志, 高橋よしえ, 米田 豊: マダニ症の10例について-宮崎市, 甘木市における症例. 皮膚病診療 25: 922-925, 2003
- 31) 畠山良子: 壁蝨(だに)による眼瞼刺傷. 眼臨 47: 347, 1953
- 32) 石田敬子, 影井 昇, 浅沼 靖: 東京都での感染が考えられる人体ダニ刺咬例. 日本医事新報 3004: 29-31, 1981
- 33) 馬原文彦: マダニの摘出方法. 皮膚臨床 32: 1918-1919, 1990